

社会科 提案授業実践報告

1. 学年と単元・題材 1年「世界の人々の生活と環境 ～豊かな国～」

2. 単元・題材について

「世界の人々の生活と環境」の学習は、日本に生活しているだけでは気づくことができない、世界の様々な衣食住などの文化にふれ、多様な世界への関心を広げることのできる単元である。気候や地形などの自然的条件や民族・宗教といった社会的条件など、多様性の背景にあるものに気づき、先入観や偏見をできるだけなくして、自文化や異文化を多面的・多角的にとらえ、互いの文化を尊重しようとする姿勢を養うことも大きなねらいの一つとなっている。また、世界地理学習の導入として、世界の気候や地形、宗教などの概要をとらえること、写真、地図、雨温図、統計など様々な資料活用の基礎を身に付け、今後の社会科学習の土台を築く単元でもある。

そこで、今単元の後半に、これまでの人々の生活と環境に関する学習の成果を活かし、自分の選んだ国の「豊かさ」についてミニレポートにまとめ紹介するという、肯定的に国をとらえる視点を持った探究的な学習課題を設定した。自然環境、生活の工夫や努力、衣食住の豊かさ、歴史や文化、資源、産業などからテーマを選び、資料をもとに自分なりに根拠に基づいてその国の「豊かさ」を考え、表現するというものである。

「世界の人々の生活と環境」で取り上げることができる国・地域はどうしても限られてしまうため、自らの興味を基に国やテーマを選んでレポートを作成したり、互いのレポートに学び関心の幅を広げることは、主体的な学習へとつながるとともに、現代社会に対する関心を高め、今後の世界地理の学習への導入にもなるであろう。

レポート作成にあたっては、地理的分野冒頭の「世界の姿」「日本の姿」での学習も活かし、基本情報として地図や統計を記載すること、考えの根拠となる具体的な資料をのせること、参考文献は書籍を1つは含む2種類以上取り上げること、などの指定をした。図書室や一人一台のChromeBookも利用しながら、資料集、地図帳、書籍やインターネットなどから多様な資料収集をすることや、「相手に伝える表現の工夫」をすることを意識付けるように心がけた。

3. 単元の目標／評価規準

(1) 本単元の目標

- ・世界各地の人々の多様な生活とその変容に関心を持ち、背景にある自然環境や社会環境に気づき、互いの文化を尊重する姿勢や態度を養う。
- ・世界地理学習の導入として、世界の気候や地形、宗教などの概要をとらえ、写真、地図、雨温図、

統計など様々な資料を活用する基礎を身に付ける。

(2) 本単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・世界の人々の生活や環境の多様性を理解し、世界の気候、地形、宗教などの概要をとらえている。 ・世界各地の様々な生活やその変容は、自然的な条件、社会的な条件から影響を受けることをとらえている。 ・図書室の書籍やインターネットも利用して、写真、地図、雨温図、統計などの様々な資料を活用する基礎を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の多様な人々の生活の特色やその変容について、背景にある自然環境・社会環境に着目して多面的・多角的に考察している。 ・適切に資料を活用し、根拠に基づいて、その国の豊かさを考察し、見る人にわかりやすい表現を工夫することができている。討論を通して、宗教や文化を尊重し合うための課題をとらえたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「豊かな国」レポートや討論学習課題を主体的に追究し、世界の多様な生活と環境に対する関心を高め、互いの文化を尊重しようとしている。 ・適切に資料を活用し、根拠に基づいて、その国の豊かさを説明することができたか。・参考文献を示すとともに、見る人にわかりやすい表現を工夫することができたか。

4. 単元の指導と評価の計画

(1) 単元の指導

第1時 「地球家族」 どの国だろう

写真（『地球の食卓』開発教育協会）を読み取り、どの国か班ごとに予想をたてる
衣食住や自然環境の特色に着目する

第2時 世界の様々な生活と環境 どのような気候の違いがみられるだろう

世界の気候帯をわける観点、それぞれの気候帯の特色をとらえる 雨温図を作成する

第3～6時 暑い地域、乾燥した地域、寒い地域、温暖な地域、高山地域の生活の特色

各地域の生活の特色と、自然環境とどのような関係があるかをとらえる

第6～8時 豊かな国 自分の選んだ国の豊かさを紹介しよう

図書室の利用ガイダンス

国を選び、資料をもとにその国の豊かさを自分なりにレポートにまとめ表現する

第9～11時 宗教・文化と人々の生活 世界には主にどのような宗教があるのだろう

多様な宗教文化を尊重するには

世界の主な宗教の特色をとらえる（歴史的分野と関連づけて実施）

討論課題 「もしお茶中にイスラム教徒の生徒が入学したら」「フランスのイスラム教徒のスカーフ禁止を認めるか」をグループ、クラスで討議する

第12時 ふりかえり

レポートの自己評価・相互評価（Google スライドを用いて）

単元の学習全体をふりかえり、人々の生活の背景にある自然環境・社会環境について考察する。今後の学習に活かせることは何かを考える。

(2) 評価の計画

●=学習改善につなげる評価 ○=評定に用いる評価

時間	ねらい・学習活動	評価			備考 ★振り返りに関する活動
		知 技	思 判	態 度	
1	各国の写真を読みとり、どこの国か班ごとに予想をたてる。衣食住や環境の特色に着目する			●	ワークシートの記述
2	世界の気候帯をわかる観点、各気候帯の特色をとらえる。	● ○			ワークシートの記述 定期テスト
3 ～5	暑い地域 乾燥した地域 寒い地域 温暖な地域 高山の地域の生活の特色と自然環境との関係を理解する。	●			ノートの記述 定期テスト
6 ～8	豊かな国 国の豊かさをレポートにまとめる。	● ○	● ○	● ○	レポートの記述
9～ 11	世界の主な宗教の特色をとらえる イスラム教に関する討論を行う	○	● ○	●	定期テスト ワークシートの記述
12	単元のふりかえり レポートの自己評価・相互評価 単元全体の学習の自己評価		● ○	● ○	振り返りのワークシートの記述 自己評価、相互評価

5. 生徒の学習の様子

生徒は大変意欲的にレポート課題に取り組んでいる様子であり、アナログとデジタルを併用して、書籍と Chrome Book の両方を広げつつ各自の作業に集中していた。

国の選択としては、興味のある国や調べやすい国、他の人が選んでいない国、などの理由をあげていた。地図帳や Chrome Book、図書室の利用に慣れていない生徒もいたが、地図帳をめくって必要な地図を探し丁寧に地図をトレーシングペーパーで写し取ったり、PC操作を得意とする生徒が検索やデーや保存の操作方法を周囲に教えるする様子がみられたり、作業を通して慣れていく様子が伺われた。

レポートのタイトル例：「自然の豊かな国オーストラリア」「食の豊かな国フランス」「カレーの国インド～食が豊かな国～」 「モナコ公国～豊かな観光、自然～」 「動植物の豊かな国パラオ」「土地の環境に合わせて発展してきた国ベトナム」「鉱物・原料資源が豊かな国ロシア」「水の国スイス」「地球と人にとって幸せ豊かな国スウェーデン」など

6. 生徒の学習の考察

生徒達が主体的にレポート作成の課題に取り組み、資料の収集、選択の力を身に付けるためには、取り組みやすい課題の設定や資料の準備、様々な資料を活用する経験を積むステップアップ、資料収集のための適切な指導が必要であるとあらためて感じられた。今回のレポート作成については、図書室からの支援と連携は欠かせないものであった。追究課題に合わせて図書室オリエンテーションを行っていただき、参考文献の選び方や示し方などの留意点を提示することができた。司書の方からは、次のような協力を得ることができた。

- ・ 社会科室の図書と合わせ、幅広く書籍を準備。

信頼度の高い書籍やサイトに関する打合せを司書の方と行う

関心の高さや取り上げやすさへの配慮 密にならない配置

- ・ 司書の専門的な助言

参考文献の紹介、探し方、レポートへの記載のしかたのレクチャー

(4月当初に学年で行った図書室オリエンテーションに続く位置づけ)

パスファインダーを作成、配布

Chrome Book・USB へのデータ保存のルールを著作権協会に確認

授業中、昼休み・放課後の貸し出し・検索への助言

また、他教科と連携して、同時期に関連する授業内容を集中させるようにカリキュラム・マネジメントを意識したことも効果的であった。技術科の「知的財産の保護と活用」において著作権や検索キーワード等を学んだこと、国語科で夏休みの課題である自主研究（総合的な学習の時間）のための書籍を検索したことと関連付けることができた。このような学習を中学校1年生の1学期を集中させることを意図的に計画することが必要と考えられる。

一方、このような指導をしたにもかかわらず、参考文献の選び方や記載の仕方に課題の残る生徒が一部みられた。また、資料からその国の豊かさを読み取った内容を工夫して紹介していたが、自分なりの考察を明確に記述できていないケースもあった。チェック項目シートや構想シートなどを用いて途中段階で学習改善につながる自己評価をする場面を設定し、形式を整えたりや思考の過程をより明らかにするなど、より取り組みやすく、振り返りの視点を明確にするステップが必要であったと感じられた。

7. 成果と課題

本稿の記述時点でまだ振り返りを実施していないが、夏休みをはさみ、レポート作成からかなり時間をおいて、単元の終わりにふりかえりを実施することとなった。時間をおくことによって、学習全体を振り返るとともに、レポート学習などの意義や今後の学習につなげる視点を考察することができると思われる。

今回は、探究的な学習としてレポート作成や討論学習を取り入れたが、単元全体の構成、取り上げる時期、振り返りを次の学習につなげていくための視点などについて、より検討をすすめていきたい。